



新年のご挨拶

全日本遊技事業協同組合連合会
理事長 原田 實



新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、益々ご健勝で輝かしい平成23年の新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、平素からのご指導、ご支援に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。まず、私ごとではありますが、昨年、全日遊連では役員の改選があり、多くの方々からご支援、ご協力をいただき、私も理事長として二期目を迎えさせていた

だくこととなりました。そのご期待にこたえるためにも、今年も、執行部一同一丸となり、皆様のお知恵を頂戴しながら、業界発展のため、全力で仕事にあたる所存であり、厳肅な年の初めにあたり、気持ちを新たにしているところであります。

さて、昨年は、世界的不況に端を発した影響が影を落としながらも、我が国の経済もゆるやかにながら持ち直し、私たちホール業界においても、店舗数の減少も下げ止まり、遊技人口も微増の傾向にあると言われております。しかし、まだまだ景気が回復したといえる状況ではなく、相変わらず厳しい業況であることに変わりはありません。私たちの業種は、かつて不況に強い業種と言われてきました。私たちがもまた、それに甘えていたのかもしれない。今、あら

ゆる産業が、国民から本当に必要であるのか、その存在意義を問われている、そんな時代を迎えたのではないのでしょうか。社会にとつて、国民にとつて、私たちの業のあるべき姿とはどういうものであるのか、何を求められているのか、今こそ根本的に業としてのあり方を見直すべき時なのだと思います。その答えは、業界に關わる全ての者で導き出していかなければなりません。時代の変化という大きな波を乗り越えるためには、共に力を合わせ、

團結することが必要不可欠であります。皆様と共に、長い歴史の中で育まれてきたパチンコという文化を後世に伝えていきたいと思ひます。昨年、活発に他団体と協議を進め、APBC開催に伴う遊技機の入替自粛、ホール5団体によるエコホール宣言等、様々な取り

組みを行いました。また、全日遊連の全面的な支援により設立した、ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワークを21世紀会の会員である業界14団体で支援することとなり、パチンコ依存問題に業界全体が取り組む体制となりました。

こうした団体間による協調した動きも、各団体の皆様が、業種を超えた團結の必要性を認識された結果、成し得たものであり、また、現在、他団体との友好的な気運は、かつてないほどに高まってきていると実感しております。この流れを今年にもつなげ、今年が業界にとって、輝かしい年になるよう、ご協力、ご支援を重ねてお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。私からの年頭の挨拶とさせていただきます。